

# 大都市

## 大都市の貧民街の状態

司会：前回の学習では、どのようにして工業労働者が生まれ、人口が集中して大都市を形成していったかをまなびました。今回はその大都市において、労働者がどんな生活をしてきたかをまなびます。

1840年代には、ロンドンには250万人が集まり、世界の商業の中心的存在になっていました。エンゲルスは1844年、ドイツからロンドンに上陸するとき、テムズ川をさかのぼりまします。その大きさを「さかのぼるにつれて船はますます密集し、ついには川の

中央に一部の狭い水路を残すこととなる。そこを何百隻もの船が矢のようにすれちがっていく、すべてが大規模で大量で、目がくらむばかりである。イングランドの地を踏まないうちから度肝を抜かれたのである。」と表現しています。

エンゲルスはロンドンだけでなく、マンチェスターやアイルランドのダブリンをはじめとして多くの都市を訪れ、この都市の形成に何があつたのか明らかにしています。皆さん読んだ感想を聞かせてください。

山田：労働者が密集している「貧民街」の状況を21カ月もかけて都市毎

にレポートしている。すごいよね。

佐藤：先ず、ロンドンのセント・ジャイルズの「貧民窟」です。四、五階建の高い家々の乱雑な集まりで、狭くて曲がりくねった、きたない街路で市が開かれ、質が悪く、ほとんど食べられないような野菜や果物のかごが、通路を狭めています。それらのかごや肉屋の店から、いやなにおいがただよってきます。家には地下室から屋根の下ぎりぎりまで人が住んでいます。街路にはさまれた狭い裏小路のきたなさと荒廃は想像を絶します。完全な窓ガラスはなく、壁はくずれ、戸口の側柱や窓枠はこわれてがたがた、ドアは古板で

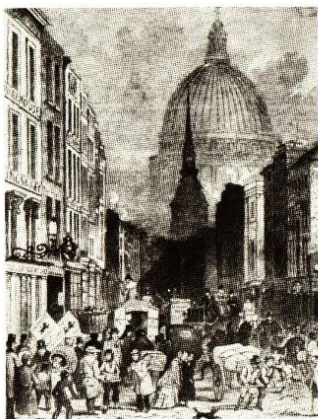
『イギリスにおける労働者階級の状態』に学ぶ

第4回

関東ブロック

## ◆みんなの学習講座

当時のロンドン、フリートストリート



あるか、まったくついてないです。この泥棒街では盗む物がないからドアは無用なのです。ゴミや灰の山がいたるところに散在し、ドアの前はぶちまけられた汚水が集まって、悪臭を発する水たまりとなっています。ここでは貧民中の貧民、最低の賃金労働者が、泥棒や詐欺師、売春の犠牲者とまざりあって住んでいます。

鈴木：ダブリンの貧民地区はきわめて

広く、きたならしき、家屋の非居住性道路の放置ぶりは想像を絶します。悪臭のする小路や裏小路がたくさんあります。多くの地下室ではドアからしか光がささず、大多数の地下では居住者はベッドはあるが、何人かは地面に寝ています。

また、スコットランドのエディンバラとグラスゴウの貧民は、ひどいです。街路はひじょうに狭いので、一軒の窓から向かいの家の窓へわたれるほどです。家は何階にも高く積みかさなっていて、そのあいだの裏小路や横町はほとんど日が入りません。この部分には下水溝も、家に属する排水口や便所もありません。そのため、人々から出るごみくずや排泄物がすべて毎晩側溝に放りこまれます。街路をどんなに清掃しても干からびた糞便の山に悪臭が生じ、視覚と嗅覚が害され健康がおびやかされます。住居はよこれ果て、たった一部屋で、換気が悪く窓は割れ、寒

くてじめじめしています。寝具はとぼしく、ひと山の藁が家族全員のベッドとなり、男も女も、老いも若きも、言語道断なきこ寝をしています。

手塚：マンチェスターの北西のボウルトンには二階建、三階建の低い家しかないのに町は暗くて貧相なあなぐらです。くさい水たまりの黒い水が町を流れ、澄んでいない空気を悪臭で満たしています。さらにストックポートの街路は一方では急なぼり勾配で、他方は急なくたり勾配です。ここは、もつとも暗く、けむたい町です。極度に陰気です。しかし谷底から丘陵の頂まで広がっているコテージや地下室住居は陰気に見えます。

### 産業革命による社会の変化

司会：韓国映画「パラサイト 半地下の家族」がありましたね、あの映画を想像しますね。華やかな裏側に労働者

の悲惨な状態があることを暴露しています。それではなぜそんなことになっているのか、話し合ってみようと思います。

**高橋**：雇う側と雇われる側の力の差だよ。労働者は労働力を売って生活するしかないし、この当時はまだ団結して組合を作ろうなんて考えもしなかったと思っよ。

**山田**：労働者予備軍というか、労働者にならざるをえない人が大勢いたのかな。経営者に安く使われても、仕事があればいいとか。

**佐藤**：当時の人口構成とか、社会情勢も調べないとつきりしないね。ブルジョアジーの語源を知っているかな、中世都市の商工業的中産階級、すなわち都市市民を意味する「ブルジョアジー」の中から産業資本家が生まれたので使われるようになったということらしい。

**鈴木**：当時は大多数が農村に暮らして

いたと思っよ。それが困い込み運動

(第2次エンクロージヤ)とか、農業の生産手段の改良とかで、人が余ってきた。アイルランドでは、ジャガイモに病気が出て不作続きで食えなくなつて、イギリスやアメリカに移住した時期でもあるよね。

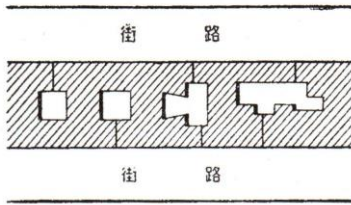
**佐藤**：ジャガイモは1570年ごろヨーロッパに伝わり、ほどなくヨーロッパ料理に欠かせないものになつていきます。本書下巻「農業プロレタリアー」に出てきますが、特にアイルランドの土壌と気候はジャガイモの生育に適して、自家消費農家の間で収入が増え生活も大幅に改善されて、アイルランドでは、1600年の人口は140万人だったのが、1841年には820万人まで膨れ上がった。

**鈴木**：急激な人口の増加は、結局人々の暮らしの生存水準を押し下げる。マルサスの人口論だね。「マルサスの罠」(人口増加速度V生活資源の増加速

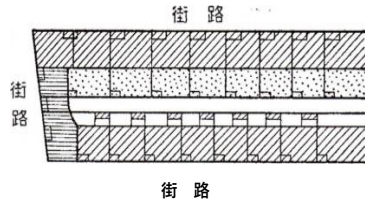
度)ですか。しかし、産業革命が生活資源の増加速度を画的的に上昇させ生活水準の維持向上につなげた。

**佐藤**：そこへアメリカから来た疫病菌が入つてきて、アイルランドに大飢饉が起こる。貧しい農村地帯では約100万人もの死者を出します。飢餓や発疹チフスや、栄養状態が良ければ回避できた病気だった。また、100万人を超える人がグレートブリテン島や北アメリカに移住したんだ。

**手塚**：技術革新により工場化が進む、当時の工場の生産物は、糸と織布が主で経営者1人に3人から4人の労働者という経営規模から始まり、経営者が乱立します。安く作れるので作ればどんどん売れる。しかし少しすると突然売れなくなる。生産過剰不況になる。この景気循環を繰り返していたのだから、不況になると労働者はすぐ首になる。力のない資本家は淘汰される。資本の集中というやつかな。



図① 裏小路の構造



図② コテージのつくりかた

図①②について斜線等はコテージで、白抜きは街路及び裏小路等々 本書45頁上段挿絵  
貧民の住居(1850年)から推測すると1部屋12畳相当か?

物や灰とくずの山は放置され、雨天の排出口です。裏小路に投げ込まれる汚物や灰とくずの山は放置され、雨天の

佐藤…イギリスは外国市場を征服して、製造品は継続的に売れて、労働者の需要も増えて、人口も同じ割合でふえている。  
高橋…資本も競争して労働者も競争している。

### 労働者の衣・食・住の実態

司会…競争については次回で学ぶことになると思います。ここでは資本主義経済の初期段階の工業プロレタリアートが都市でどんな生活をしていたか詳細に描かれています。もう少し本文の中から出していただきたいと思います。  
佐藤…労働者住居の家は二本の街路の間に作られ、住居間の間のあき地は裏小路と呼ばれます。この裏小路は換気がさまたげられ住民の健康には有害です。家々の煙突だけが裏小路の唯一の排出口です。裏小路に投げ込まれる汚物や灰とくずの山は放置され、雨天の

たまり水の流出口もありません。  
(図①参照)  
山田…その後、別の労働者街のつくりかたは、第一列のコテージは裏門と小さな裏庭をもつめがれたもので、家賃がもつとも高い。この列の裏庭の壁の後ろは、狭い横町、裏道で、両端は建物でふさがれ、もつと狭い道か建物でおおわれた路地が横から通っています。この裏道に面している第二列のコテージの家賃はもつとも安い。この列は第二列のコテージと後ろの壁を共通にしています。この第三列のコテージは反対側の街路に面しています。家賃は第一列のコテージよりは安いが第二列のコテージより高いです。換気も第一列、第二列は良いが第二列は換気が悪い。裏道が裏小路と同じく不潔です。  
(図②参照)  
佐藤…図②ですが、中央列のコテージが、本文の第二列のコテージというこ

鈴木…労働者の衣服は、きわめて粗悪です。材料は木綿です。綿ピロッド製のズボン、綿生地の上着です。イングランドの多湿な空気と急変しやすい天候に適さない重い綿織物の衣服です。帽子は円形や、円錐形や、円筒形、縁広のもの、縁なしのものなど、さまざまな形です。若者だけが工場都市で縁なしをかぶっています。帽子を持っていないものは、紙を折って、浅くて四角い帽子を作ります。

高橋…労働者の食物は、粗悪のジャガイモ、しなびた野菜、古くて質の悪いチーズ、悪臭のベーコン、脂肪が少なく古くてかたい死んだ動物の腐った肉です。極貧の労働者は、買う品物の質が最悪なのにやりくりするため土曜の晩の10時からの安売りをねらいます。日曜の朝には腐って食べられたものではなくても食べるしかないのです。手塚…食料品詐欺に労働者は引つ掛かります。塩入バターを生バターとして

売られている。塩入バターのかたまりを生バターの包装紙で包んだり、味見用に一ポンドの生バターを塩入バターの上のせ、味見のあとに塩入バターを何ポンドも売ったり、塩を洗い落としたりうえてそれを生バターとして売ったりするのです。また、砂糖のなかに米粉や他の安物がまぜられたり、せつけん工場の廃物が他の物質とまぜられて、砂糖として売られます。これらはすべて詐欺です。

### 新救貧法で追い込まれる労働者

司会…どの都市においても同じような悲惨な労働者階級の状態が述べられています。1833年には奴隷貿易廃止が行われるなど、人権意識が高まっている中で、このような宗教的にも道徳的にも許されない状況がなぜ放置されていたのか、だれか整理してください。

鈴木…1834年までは、エリザベス

一世時代1601年に制定された「旧救貧法」が生きていて、1795年に確立された「スピンナムランド制」がとられていました。低所得者の生活費を補助する制度で、最低生活費を算出して、満たない場合はその差を補助するもので、財源は土地保有税で調達しました。

佐藤…その制度が地主階級を没落させて産業革命を助長したという説もありますね。

高橋…資本家はこの制度が邪魔です。労働者を安く使おうとすると、この制度に逃げ込まれ、必要以上に安く使えません。そこで、議会に働きかけ「旧救貧法」を廃止して、1834年「新救貧法」を制定します。

佐藤…「新救貧法」は救済の条件を厳しくして、働くことのできる者には働くことを強制し、拒否した場合は厳罰を科し、「救貧院」に収容される。ここでは、過酷な労働と極端に安い労賃

## ◆みんなの学習講座



貧民の住居（1850年）

しかもろえず、腐ったような食物しか与えられない、死んだほうがましだと思っような悲惨な施設生活が待っていたようです。

労働者階級の選挙権は？・・・

高橋：1832年には第一次選挙法の

改正がありました。労働者階級には選挙権が与えられません。議会は、自由党と保守党の二大政党により支配され、労働者階級を代表する政党はありませんでした。

手塚：このころから都市労働者を中心に選挙権の要求など「人民憲章」を求めたチャーチスト運動が起りますが、一定の条件を満たした労働者の選挙権が認められたのは、1862年の第二次選挙法改正を待たなければなりません。

鈴木：1844年には、工場法が制定され、児童労働など長時間労働の規制がされましたが、抜け穴だらけだったようです。

手塚：女性が選挙権を得るのは1918年になります。

司会：大都市の労働者は、つねに失業、餓死の危険にさらされています。労働者の住居は配列が悪く、つくりも悪く、維持も悪く、換気も悪く、じめじめし

ていて不健康です。居住者は極端に狭い空間へ押しこめられ、一部屋に一家族が眠ります。住居の内部設備は貧弱で、ひどいと家具もありません。労働者の衣服も粗悪でぼろです。食物は劣悪で、食べられたものではありません。極端な場合は餓死します。資本主義経済の完成するイギリスの労働者が、このような状況に追い込まれた原因には、様々に上げることができると思いますが、詳しくは次回からの学習になります。大変ありがとうございました。

次回は、競争とアイルランド人の移住の章に入ります。

ブルジョアがたがいに競争するように、労働者もたがいに競争する。そして、労働者は、組合によってこのような競争をなくそうとする。この競争の排除は、今日の労働運動にとっても大きな課題です。